

## Ⅵ 「自学自習」を始めるにあたって

自学自習を推進する上で大切なことは、学校全体で組織的に行うことです。しかし、どのように取り組めばいいのか、どのような準備をすればいいのかなどの不安があることも確かです。そこで、県内外の事例を基に、以下に基本的なステップを示しました。児童生徒や地域の実態に応じて工夫し進めてください。

**ステップ1** 保護者への周知及び協力依頼

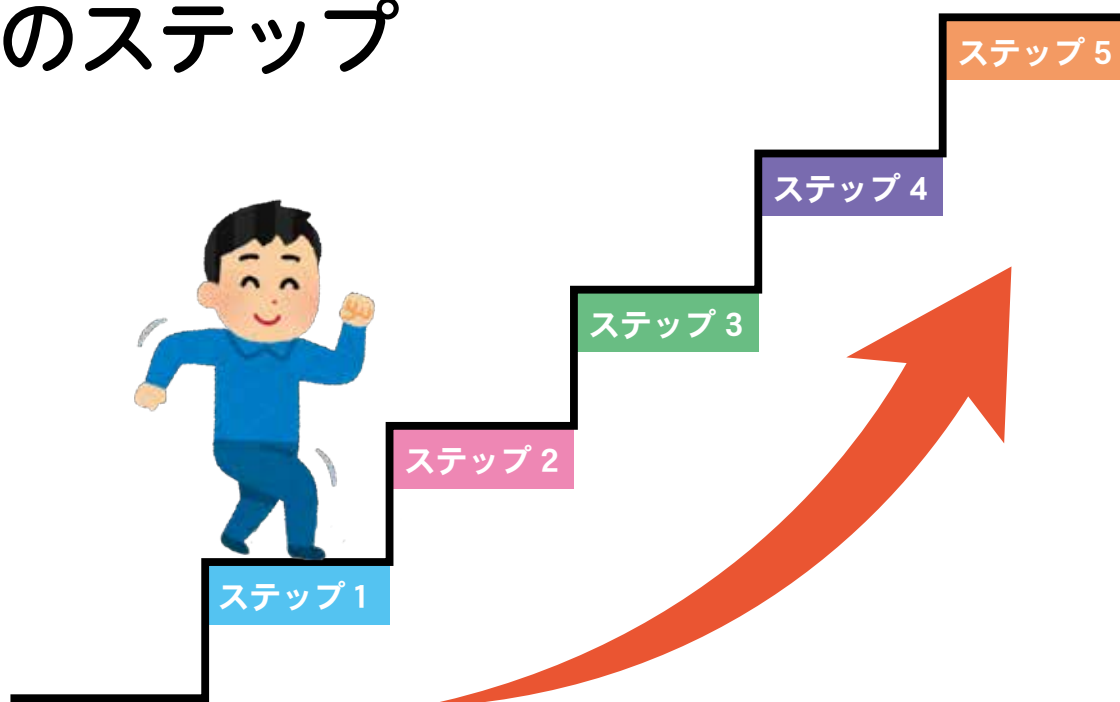
**ステップ2** 自学ノートまたはファイルを作成

**ステップ3** パターンを作成

**ステップ4** 学習目標の設定（学期・週など）  
※「キャリア・パスポート」で目標を確認する。

**ステップ5** 学習計画と振り返り

### 5つのステップ



# ステップ1 保護者への周知及び協力依頼

「自学自習」を進めるにあたって、目的、方法、期間等を学校便り、広報等で保護者や地域へも周知し協力を求めましょう。



令和3年4月12日

保護者各位

## 自主学習の推進についての:

～2030年の社会と たちの未来（一人一人がその創り手）のために～

新学期が始まり、学校中に子どもたちの楽しそう  
皆さまにおかれましては、平素より、本校の教育  
感謝申し上げます。

さて、3月末に沖縄県教育委員会より学力向上推  
行政基本方針が示されました。その教育目標として  
れる幼児児童生徒の育成」が掲げられました。

推進策には、「これからの幼稚園・学校には、  
つ、一人一人の幼児児童生徒が、自分のよさや可能  
を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働し  
豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手と  
められる。」～と記されています。

本校では、これまで児童に一律に課題を与え、学  
た。その成果として、昨年度末に実施された沖縄県  
実施全学年において県と同等かそれ以上の結果を得  
しかし、与えられた課題を学習する「受け身的な  
個性と創造性あふれる幼児児童～」が育成できるの  
日々を過ごして参りました。

そこで、今年度より、国や県、市の目指す児童像と  
諸見っ子たちの未来（一人一人がその創り手）のた  
いと考えております。

つきましては、保護者のみなさまの多様なご意見  
より良い教育活動を推進したいと考えております。  
もたちのために、今、取り組まなければならない事  
くお願い申し上げます。

## 記

- 1 目的**
  - ①自分の良さや可能性を認識させることで児童の自己肯定感を高め、他者も価値ある存在として尊重できる児童を育成するため
  - ②学習の苦手感に起因すると思われる登校しよりの改善のため
  - ③個性を認め合える、「明日も行きたくなる学校」を目指すため  
※登校して帰宅するまで全てが学校教育（得意を伸ばす教育）
  - ④担任教師が、休憩時間や給食時に家庭学習チェックを行っている現状を改善し、児童と向き合う時間を確保するため
- 2 方法**
  - ①低学年（小学1年生～小学3年生）は従来型の家庭学習から始め、児童の実態に応じて教師が支援しながら徐々に自主学習型に移行する。
  - ②高学年（小学4年生～）は、自主学習ノートを活用する。  
※ノートの上半分は明日の日進や学習のふり返り等  
※ノートの下半分は、1日のふり返り等（困っていること、嬉しかった事、提案、先生あのおね 等）
  - ③情報化社会の到来に伴う児童生徒の資質・能力（短時間に  
より多くの情報を正確に読み解く「読解力」）の育成のため、  
音読と読書を推奨する。（家庭では、音読・読書・手伝い・好きな事）
- 3 期間** 令和3年4月～令和4年3月まで
  - 1年間実施し、不登校・登校しよりの件数と学力調査結果をもとに、年度末に検証し、自主学習の取組方法を検討する。

～学力向上推進策策定にあたって（沖縄県学力向上推進策より）～  
2030年の社会と子供たちの未来（一人一人がその創り手として）

情報技術の飛躍的な進化等を背景として、あらゆる分野でのつながりが互換性を越えて多様な人々や地域間が緊密につながる状況が進展しています。このような社会の変化は加速度を増し、複雑で予断困難となってきておりこのことは全ての子供たちの生き方にも影響を及ぼすものとなっています。

国においては、2030年以降の社会を展望した教育施策の重点事項を「第3期教育振興基本計画」において示すとともに、平成29年には、幼稚園教育要領や小学校・中学校学習指導要領等を告示しました。その前文では、「これからの幼稚園・学校には、教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の幼児児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手とすることができるようにすることが求められる。」とされ、これからの学校に求められることや、これから育てるべき幼児児童生徒の姿について示されています。

本県においては、2030年を想定年とした基本構想である「21世紀ビジョン」を示し、「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」などの県民が願う5つの将来像の実現を図るための「基本方針」や「実施計画」を策定しています。そこには「『人材こそが最大の資源』との考えを共有する沖縄」が掲げられ、子供たちの笑顔が常に絶えない、希望と優しさに満ちた豊かな社会の実現を願い取組を進めることとしています。